

「With コロナ時代における未来アイデア」応募用紙

○応募者

氏名・法人名・団体名	慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 アートびっくり戦隊
(法人・団体の場合)	
メールアドレス	
電話番号	

募集対象・応募資格適合への同意	<input checked="" type="checkbox"/> 同意します
暴力団関係者（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）に規定する暴力団をいう。）	<input checked="" type="checkbox"/> 該当しません

○応募内容

アイデアの部門を下記から1つ選んで丸（○）を記入してください。			
	未来デザイン部門	<input checked="" type="radio"/>	未来テクノロジー部門

アイデア名	美術館×宅配サービス 俺の美術館
-------	------------------

提案の概要（200字以内）
本アイデアは、住民と飲食業者および美術館の新しい関係構築を提案する。With コロナ時代となり、宅配サービスの普及が進んでいる。一方で、美術館のような密閉空間への移動は避ける傾向にあり、文化保護を掲げる美術館が単なる倉庫となってしまう。本提案は住民が宅配サービスを通して美術品に触れる、または見る機会を創出し、文化保護の新しい有り様を提供する。

提案に当たっての現状・課題・背景 ※様式自由
<p>(現状)</p> <p>住民</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店舗利用（外食）を避け、お弁当形式の持ち帰り需要が増加している。 ・出前や宅配といったサービスが急速に広まっている（例：Uber eats） ・特別な祝い事などで外食するにも躊躇する傾向がある、一方で特別感のある食事の準備は大変 ・美術館のような密閉空間への外出を避ける傾向にある。 <p>美術館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休館や展示時期の変更、展示内容の変更が余儀なくされている。 ・再開しても来場者が少ない。 ・オンライン美術館や無観客でのトークイベント配信のみの対応が増えている。 ・パブリックドメインの作品を中心に名画のデジタルデータが無料公開されはじめている。 ・保存の観点から美術品のデータ化の動きが活発化している。 <p>(課題)</p>

○住民

- ・外食をしたくても躊躇する傾向にあり、気軽に利用できない。
- ・美術館へ行きたくても3密問題により、美術館へ行きづらい

○美術館

- ・来場者が見込めない。
- ・イベントや展示を企画できない。
- ・美術館離れが進む。
- ・美術館の存亡の危機。
- ・日本の文化の衰退。

(背景)

- ・COVID-19の流行による突然訪れた終わりが見えない環境の変化の中での不安。
- ・出前や宅配サービスの充実により、各お店が出前機能を持っていないとしても、宅配代行をしてくれるサービスが登場。各店舗も実店舗の回転率が低下しがちなため、宅配需要を取り込みたい

提案を実施することによる効果、提案の実現可能性や実現に当たっての課題 ※様式自由

(効果)

- ・住民と美術館がケータリングサービスを通じた新しい関係が出来上がる。
- ・美術館の文化保護に対しての啓蒙活動の一端を、住民と共有できる。

(課題)

- ・当該提案はビジネスモデルの提案であり、社会実装するためには、宅配サービス業者と美術館で販売されているレプリカ品の食器類やカトラリーを提供する企業との提携が不可欠である。
- ・県には事業化に向けた企業等とのマッチングと実証実験を行う場合の県内フィールドの提供・調整を期待
- ・主なターゲットは、共働きのDINKSや外出に行きたくても行きづらい家庭（例：子供が小さい、コロナ下では外食したくない）と捉えている。

提案の詳細 ※様式自由

別添資料のとおり

※「提案の概要」以下の項目は、適宜記入欄を拡張して構いません。

※様式自由となっている項目は、別ファイル（ワード又はPDF形式）で提出していただいても構いません。ただし、本応募用紙と合わせて最大20MBまでです。